

ベトナムの経済発展と為替レート政策との関係

Nguyen Kim Thu

本学位請求論文では、短期的な為替レート政策の主要な目標を確立するために、1992年から2007年におけるベトナム経済の、為替レート調整と他の経済変数との間の関係を明らかにすることを目的としている。この学位請求論文では、これと併せて、東アジア諸国における経済発展に対応する為替レート調整との関係とを分析し、ベトナムにおける将来の為替レート政策に関する教訓を引き出すことも目指している。

本学位請求論文で検討することになるが、ベトナムにおける従来の為替レート調整は、ベトナム金融市場の安定性に関しては大きな影響を与えてきたが、現在のベトナムにおける貿易構造を前提とすると、貿易収支に関しては限定的な影響しか与えていないとすることができる。これにより、ベトナムにおける為替レート政策の目的は、輸出競争力の維持を目指すことより、金融制度の安定性を目指すことにある。

本学位請求論文の第2の焦点は、他の東アジア諸国の経験を基にして、ベトナム経済の長期的発展を見通し、将来の為替レート調整を予測することである。ベトナム経済における、産業分野の海外直接投資 (FDI) の受け入れと輸出部門における海外からの進出企業の役割の増加という現在のベトナム経済の方向性を前提にすると、ベトナム経済は他の東アジア諸国の経済発展プロセスの後を追っているように見受けられる。他の東アジア諸国の経済発展パターンを意識すると、もしFDIを基盤とする、輸出志向の工業化が加速するならば、ベトナムは大規模な工業化を達成することが期待される。こうした認識を前提に、この学位請求論文では、他の東アジア諸国における、FDIを基盤とする、輸出志向の工業化と為替レート制度との間の関係を分析する。その中で、海外直接投資が増加したことにより、輸出志向の工業化を達成した、多くの東アジア諸国では、自国通貨が切り上がり、これによって、より弾力的な為替レート制度に移行している。こうした、FDIを基盤とした工業化と為替レート制度の関係の分析は、ベトナムにおける為替レート管理政策に対する有益な情報を提供している。